

JAつがるにしきた 本支店一覧

| 本支店名 | 住 所 | 電話番号 | F A X 番号 |
|---------|------------------------|--------------|--------------|
| 本店 | つがる市柏桑野木田幾世7番地4 | 0173-25-2002 | 0173-25-3519 |
| つがる白神支店 | 西津軽郡鯉ヶ沢町大字舞戸町字下富田87番地1 | 0173-72-2783 | 0173-72-6544 |
| 深浦事業所 | 西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢82番地8 | 0173-84-1001 | 0173-84-1010 |
| つがる支店 | つがる市稲垣町豊川宮川1番地18 | 0173-46-2215 | 0173-46-2252 |
| 森田事業所 | つがる市森田町山田滝元12番地 | 0173-26-3018 | 0173-26-4198 |
| 富苑事業所 | つがる市富苑町藪分26番地3 | 0173-56-3171 | 0173-56-3192 |
| 鶴翔支店 | 北津軽郡鶴田町大字鶴田字相原55番地42 | 0173-22-2428 | 0173-22-6650 |
| 津軽北部支店 | 北津軽郡中泊町大字八幡字日向320番地2 | 0173-26-0272 | 0173-23-3935 |
| 嘉瀬事業所 | 五所川原市金木町嘉瀬雲雀野18番地1 | 0173-53-2067 | 0173-53-2773 |
| 市浦事業所 | 五所川原市相内岩井81番地394 | 0173-62-2125 | 0173-62-2643 |
| 武田事業所 | 北津軽郡中泊町大字富野字千歳88番地 | 0173-57-2216 | 0173-57-4522 |



宮下県知事との対話集会（柏地区 古坂朝和氏りんご高密度植園地にて）

第五次地域農業振興計画

自 令和6年度 ~ 至 令和8年度

地域農業の担い手とともに
活気・魅力あふれる農業の実践

JAつがるにしきた

「第五次地域農業振興計画書」刊行にあたり

つがるにしきた農業協同組合
代表理事組合長 山中 満春



組合員・地域の皆様には、日頃より農協事業の運営につきまして、特段のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、世界に目を向けますと、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナの武力衝突など国際情勢は大変不安定な状況で、国内の農業生産現場では、慢性的な労働力不足に加え、資源高や円安などにより生産資材価格の高騰が続いています。一方で農畜産物への価格転嫁は一向に進んでおらず、横ばいの状況が今もなお続き、農業経営は益々厳しさに拍車がかかり、離農者の増加や担い手不足による耕作面積の減少が懸念されています。また、近年は地球温暖化の影響で管内も異常気象の発生が非常に多く、令和4年8月の豪雨災害では約33億円とかつて経験したことがない甚大な被害を受け、令和5年も猛暑の影響により米の白未熟粒の発生が多く、1等米比率は5割を割り込むなど、丹精込めて育てた農産物が収穫できなかったり、著しく品質が低下したりするなど、組合員にとっては非常に厳しい年が続いていますが、今年こそは豊穡の一年になりますよう切に願っております。

このような情勢の中、農協の主力であります米の販売環境は経済の再開により、外食や中食などの需要が回復したことや、主食用米の生産が抑制されたことにより米価は回復傾向となっています。また、令和6年産が本格的な販売になる新品种「はれわたり」は、県産米としてはこれまで少なかった「甘いもちもち食感」と「口福」という豊かな味わいを売りに「つがるロマン」を引き継ぐ代替品種として生産者の期待が高まっており、令和6年産は管内約970㌦の耕作を予定しております。今後は業務用米として人気のある農協主力品種「まっしぐら」、ブランド米として定着した「青天の霹靂」、この3品種を中心に需給にあったバランスの取れた作付け構成に産地をあげて取り組み、産地銘柄米として息の長い品種を育て消費者から指名される産地になることが、生産者・農協の使命であると考えています。

「第五次地域農業振興計画」では、地域農業の担い手とともに活気・魅力あふれる農業の実践を営農ビジョンに掲げ「再生産可能な農業所得の確保」「担い手の育成と経営基盤の強化」「産地の維持と拡大を目指す事業展開」の3つを基本方針として計画書を作成しました。今後は組合員の皆様から頂戴した要望を真摯に受け止め計画に組み込み、別に定める「第五次地域農業振興計画に係る支援策」を大いに活用してもらいながら、組合員と農協が一丸となって取り組むことで、地域に活気生まれ魅力あふれる農業の姿が実現できることを切に願い、刊行にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和6年1月

この度の第五次地域農業振興計画は、令和5年春に実施した組合員アンケートの回答傾向が前回と「引き続き同じ」であったことから、

「継続」を **第一** の要に。
対応の強化が求められるところは

「充実」を **第二** として、作成しました。
振興計画を実行し、その道中で新しい

「発想」が **第三** として、出てくる事が、
未来の地域農業につながる打開策となります。
この3年間を通して、何かひとつ・あとひとつ、
新しいアイデアに向かって、組合員の皆様と共に
JAは一蓮托生で新時代へ挑戦してまいります。

本計画書は「第五次中期3ヶ年計画」と合わせて、第17回通常総代会において承認された後に刊行となりますが、組合員の皆さんが令和6年度の営農計画を考える折にご利用いただきたく、先行しての刊行といたします。